

交通安全年間スローガン

◎山口県

住みよい山口 いつも心に 交通安全

◎全国

☆運転者（同乗者を含む）に呼びかけるもの

○運転は ゆとりとマナーの 二刀流

☆歩行者・自転車利用者に呼びかけるもの

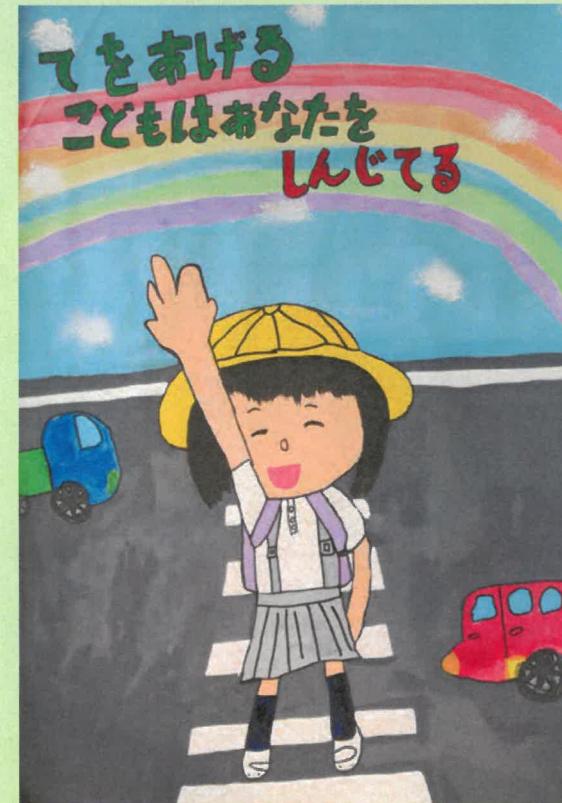
○自転車に 乗るなら必ず ヘルメット

☆子どもたちに交通安全を呼びかけるもの

○ペだるこぐ ぼくのあいぼう へるめっと

令和4年度 交通安全作文募集
優秀作品集

交通 安 全



令和4年度 山口県交通安全ポスター最優秀賞作品
(岩国市立 玖珂小学校1年 白濱 陽莉)

一般財団法人 山口県交通安全協会

はじめに

「住みよじ山口　うつむ心に」交通安全 「交通事故のない、住みよじ山口県はみんなの願いです。このためには、県民一人ひとりが交通ルールと交通マナーを守り、そのことを習慣づけることが何よりも大切です。

この作文集は、令和四年秋の全国交通安全運動の一環として、各警察署、各地区交通安全協会及び各教育委員会並びに各学校のご協力により、県下小・中学生から寄せられた六六〇点に及ぶ交通安全作文の中から優秀な作品を選び編集したものです。

作品はどれも、じどもの立場から見た交通安全についての貴重な意見や考え方が素直に述べられています。

本冊子を交通安全意識の普及・啓発と交通事故の防止に役立てていただければ幸いです。

令和五年一月

一般財団法人 山口県交通安全協会
会長 村田常雄

もくじ

小学校の部

最優秀

○ とび出しへきん

○ 交通安全のリレー

優秀

○ みまもつてくれてありがとうございます

○ 横だん歩道のやくそく

○ とまつてくれてありがとうございます

○ みんなでつくる無事故の社会

佳作

○ 「くるまのうんてんしゅさんにおねがい」

○ わたしのほうが、おねえさん

○ 「くるまのうんてんしゅさんにおねがい」

○ わたしのほうが、おねえさん

光市立三輪小学校
柳井市立柳井小学校
田布施町立城南小学校
山口市立井関小学校
山口市立湯田小学校
山口市立井関小学校
下松市立公集小学校
山陽小野田市立高千帆小学校

花本弦馬
河本碧莉
藤井咲嘉
片岡知大
宇山雄翔
片岡恵万
堀上大輝
森重紗雪

一年
四年
一年
三年
六年
六年
一年
一年

令和四年度 交通安全ポスター最優秀賞作品

中学校の部

最優秀

○ みんなの願い、私の願い交通安全

優秀

○ 一人一人の注意が大事

○ 「当たり前」を当たり前に

佳作

○ 自分と相手を守る交通安全

○ 命の大切さ

防府市立佐波中学校
山口市立阿東東中学校
長門市立日置中学校
萩市立萩東中学校
上関町立上関中学校

二年
一年
三年
一年
二年

○ 自分で自分の命を守る
○ 「実体験をもとに」

光市立岩田小学校
山陽小野田市立出合小学校
六年
六年

中崎有紀
古川拓翔

堀上大輝
森重紗雪

小学校の部

最優秀

ひび出しあきけん

光市立二輪小学校

三年 花本 弦馬

ぼくがまだ小さかった時に、親せきの家で遊んでいた時のことです。親せきの家のすぐ前には大きな道路がありました。親せきのお兄ちゃんたちと一緒にわざ遊んでいたのですが、お母さんが車でぼくをむかえに来ました。それを見てぼくはうれしくなって、おぐにお母さんと一緒に走って行きました。ここで道路上に止めたとしたら、かじこはやかの車がぼくの目の前を通りすがしてしまった。ぼく

はびひのひつひつめご、左か止まつてなれどしおつた。その後にお母さんに「道路に出るときは、左右をかくにんして窓かのじて行動しようね」と教わったのです。お母さんと買物に行つて車にやぢりのとしまつた。ぼくはぽんやりしながら歩じてしまふ、左右をかくにんせず道路をわたつてしまいまつた。あまり車が通りなじ道なので、大丈夫だらうと思つてつました。その時には車は来てしなかつたのですが、もし車が来ていたらひかれてしまつていたかも知れません。車にもどつた後にお母さんにしておじられてしまつた。

ぼくは今まで交通安全についてあまり気にしてこなかつたと思ひます。お母さんにおこられてこいつの大切さを考えるものになりました。

ぼくは三年生です。わいわいした小学校で

自転車にのるための交通教室がありまつた。

そしたら友だちと遊びに行つたりする時な

ど、毎日自転車にのる人が出来るようになつた。

自転車がすきだ、家のにわでよくのつてます。自転車は歩くともとかがつて、はやく行きたゞといへば、止まる時には必ず止まれません。歩じてこる時よつわあらなつゝのがたくさんあると感じます。

どんなに小さな道でも車が通るところだし、わたる時はかなり左をかくにんするところをかなりすまわりなじつけません。これから道をわたる時はぜつたらに振をつけないと感じます。

わたしの家から学校までは、歩じて一十分くらうです。毎日、五年生と二年生と一年生の友達と歩じて学校まで行つてます。

歩道のなじせまじ道路を通りたり、車のたぐわん通る交差点を通り、学校へ行きます。

通学路のせまじ道を歩じてくるとき大きな車が通つたり、横だん歩道で信号を待つてくる時や横だん歩道を歩きはじめた時に、車がまだ止まつてじなかつたりして、ヒヤッとするきはんがたくさんあります。朝は、よく交差点に交通安全ボランティアの人や先生たちがわたしたちがあらなづるものに見付つてくらいます。

四年 河本 碧莉

柳井市立柳井小学校

交通安全のリレー

自転車にのるための交通教室がありまつた。そしたら友だちと遊びに行つたりする時など、毎日自転車にのる人が出来るようになります。自転車がすきだ、家のにわでよくのつてます。自転車は歩くともとかがつて、はやく行きたゞといへば、止まる時には必ず止まれません。歩じてこる時よつわあらなつゝのがたくさんあると感じます。

どんなに小さな道でも車が通るところだし、わたる時はかなり左をかくにんするところをかなりすまわりなじつけません。これから道をわたる時はぜつたらに振をつけないと感じます。

毎日こうつねに行つてこらね一年生の友達

は、まだ道路の歩き方になれていないと思つたことがときどきあり、少しきけんなこともあります。そんな時は五年生の友達が「あぶないよ」と教えてあげています。一年生のことを見つかり見てあげられていて、あちんと教えてあげてすゞらなと思います。

そんな様子を見ていてわたしが一年生の時のことと思い出しました。わたしが一年生の時は、お姉ちゃんやお姉ちゃんの友達といつしょに学校に行っていて、道路の歩き方やあぶないところや横だん歩道のわたり方などの交通マナーやルールを教えてもらいました。少し忘れていたとき「あぶないよ」とおこられたこともあります。その時は、どうしておこられないといけないのかわからなくてくやしかったけど、今振り返ってみると、わたしを交通事じから守ってくれていたんだなと思います。お姉ちゃんに聞いてみるとお姉

ちゃんが一年生の時も上の学年の友達と学校へ行き、交通マナーやルールを教えてもらつてましたそれです。

わたしも一年生としていつも学校へ行っています。あぶないところや、気を付けていたところをわたしが教えてもらつたように教えたことがあります。あぶないところや、気を付けるところをわたしたいなと思いました。そのためにはわたしももっと、お父さんやお母さんや大人の人につつかり交通マナーやルールを教えてもらつて安全に学校へ行つたり、人にきかんを教えられるようにしたりです。

来年わたしは、五年生になり高学年になります。低学年や交通マナーやルールを守つていないう人に「あぶないよ」と教えてあげられる五年生を目指したいです。

わたしが交通マナーやルールを教えてあげた低学年の友達が、五年生・六年生の高学年になつた時に、低学年に交通マナーやルール

優秀 みまもつてくれてありがとうございます

田布施町立城南小学校

一年 藤井 啓嘉

を教えてあげてほっこりです。自分が教えるてもらつたように、交通マナーやルールを低学年に教えてあげることを引きついでいるといいなと思います。高学年が低学年に交通マナーやルールを教えてあげるリレーがこれからずっと続き、みんなで交通マナーやルールを守つて、交通事じから大切な命が守れるといいなと思いまゅ。



わたしは、四年から小がく一ねんせいになりました。小がくのときに歩くのがよくあるのをじつむたのしみにしてしまつた。じつしてかっこいいと、だいすきなおねえちゃんといつしょにとりいづらせるからです。そして、たぶせこのとむだかをつくりたないとおもつていたからです。でも、あいこふあんがありました。それは、ようかえんのときは、まじめ、くぬまでつれてこいつこむらつこたからです。一ねんせいになると、じぶんで小がくこつまであるじいかなじじけないじから、たいくんだなとおもつてこました。

小がつひいじ、こめのがくわぬおと、わたしは、おかあさんとなんじか、つりがくろをじつしょにあるきました。どののみがわをあるひじや、じつるのわたりかた、おりだんせうのわたりかた、きかんなじょ、これつどあるかなじとなんじをおしことくれました。

だからわたしは、じいじのあむひいじ、いつもおをつむじこむことがあります。わたしたちのじいじのは七人で、わたしは、まえからいばと田をおむじこむす。一れひで、まえをよくみてある／＼ひじこむす。あぬの口は、かさをむつてこむのであるきじくじです。かさが、まえの人やつしろの人いたらなじようじに、かんかくをあけるようじしています。わたしのおねえちやんは、ついろかり／＼せと田にこむのだ、つれしこし、あんしへつむじのじをとく。

横だん歩道のやくそく

山口市立井関小学校

三年 片岡 知大

ぼくが登校すると中には、横だん歩道があります。そこを通る時、手をあげても止まつてくれない車がいます。学校であった自転車教室の時に、自転車のり方のルールとしてしょに、歩行者ゆつ先どひじを習いました。教えてくれるけじわつの人が「横だん歩道は、歩く人が先にわたる決まりになつてじます。人が手をあげてあっての車は、かならぶ止まってわたる人を先に通してあげないといけません」と教えてくれました。

なぜ止まつてくれない車がいるのでしょうか。たとえば急いで仕事場などに行きたいたとか、横だん歩道の先の信号きが赤になります。だからなどの理由があるからだと感じます。

小がつひのあとのおひだんせうのじがつひいじが、じつや、かこわのりの人、せのほんペトロールたのりの人、ねつきの人、じうわんせんせう、がつひのせんせうがはたをむつて、おうだんせうのをわたるのをしただすかしてくれます。みまわつてれじこます。おさじあるのがれじこじす。だあつたひ、大きなじえで、「ねせものびわこます」とおこわいをします。

おひだん、あそひこそひ、小がつひのじとひじわじめおわ。

わたしは、じれかりも、とまつてくれたくるまやじひのじをみまわつてしてくれる人に「おりがむひ／＼せうおわ」じふひもわひじ、おうだんせうのをわたるたうじす。

歩行者ゆつ先どひじ決まりがあるのにむしめるのはじけなじじです。ぼくたち小学生は、車の人に見えやすくなるために、手をあげて令図を出してこます。ほかにも黄色の安全色りしをかぶつたりラングセルカバーや交通リップンをつかたりして、田立ちやすくしてこます。じんな／＼に、ぼくたちも交通安全のためにつきむことをしてこるので車の人わきりんと決まりをまもつてせうじす。

あやしく、歩行者の方も手をあげずに急いで横だん歩道をわたる人を見かける時があります。車は急には止まれないでので、とび出しがされたら事故につながつてしまします。歩く人の方も手をあげて、左右のかくにんをしてからゆづりと歩いてわたりなじとつけません。

来年からは、ぼくの弟が小学校に入学します。これまでには、お姉ちやんとじつよ

に登校していたのでわがそつとおわるので、これからは、ぼくが弟のことをきちんと見て、まわってあげなじとじけません。弟にも交通安全のためのルールを教えて、きょうひだいで安全に登校したじと感じます。



ひまつてくれてありがとう

山口市立湯田小学校

六年 宇山 雄翔

「飛び出したりだめだよ、気をつけてね。」
ぼくが朝家を出る時に家族が毎日ぼくに言つ
ます。

ぼくの家の前はすぐ道路なので通学、通勤の時間帯は車がどんどん走つてきます。せまい道なので白線などわすげではなくカーブも多いため、車も自転車も歩く人も気をつけて通行しないとじけません。交通安全は、幼稚園のころに横断歩道の渡り方や小学校三年生で自転車教室、道路の近くで遊ばないなど色々習つてきたけれど、まだまだ本当にたくさん危険な事があるんだなと感じる事があります。ニュースで自分の住んでる地域で事故がありましたと流れる時、「ドキッ」としま

す。もししかしたら自分や自分の家族が被害者にも加害者にもなる可能性があるからです。だからになつても悲しきじんになります。

車で出かけた時、事故の現場にあつた事があります。追突されたような車をみかけた時、あと少し早くぼく達もいじを通つていたらやしかした事故に巻きこまれてましたかもしれないと思つと、とてもいわくなりました。近年では高齢者の運転でアクセルとブレーキをふみ間違えてお店に突つこんでしまったというニュースもよく耳にします。買物をしている時に、まさか車が突つこんでくるとは予想もできません。気をつけないと運転が困難になつてきたり、めん許を返納するところ選たくも必要になります。返納してからの生活の事もみんなで考えてじく事も大切だと思います。

逆に悲しい事ばかりではなく、車に乗つて

いた時にうれしくなつた行動にも出会つました。それは、信号のない横断歩道をぼくと同じ小学生達が渡ろうとしている時、止まつてくれた車にお礼をしてじるのを見た時でした。車側から見たらじんな風に見えてじるんだと思つと心がだんだん温かくなつてしまつた。だからぼくも止まつてくれるのが当たり前ではなく、感謝の気持ちを持ち、気をつけ横断歩道を渡りたいと思つました。交通安全は一人一人がルールを守ることは大事だけど、ゆかり合いや感謝の気持ちがあると、イライラせむ事故も減るんじやないかと思つました。あたり運転や信号無視、飲酒運転やその他にも命をつばうと分かっている事は絶対にやめてほしくです。そしてぼく達も、命をおとこじまつ行動をしなじゆに心がけてじくつと感じます。

みんなでつくる無事故の社会

山口市立井関小学校

六年 片岡 恵万

我が家家の前の道路では、去年から大規模な道路工事が行われています。私たちの通学路にもなっている市道に、歩道を作る工事です。

長年歩道が狭く危険だった箇所について、市役所の方と地域の人で何回も話し合ひを重ね、みんなの意見を取り入れた形で歩道を作り、横断歩道も移設するといつ大掛かりな物です。私の母も話し合いに参加し、どういう形が一番いいのかみんなで話し合ったときじています。たくさんの大人が私たちの交通安全のために知恵を絞ってくれたことに、とても感謝しています。

そうして始まった待望の工事ですが、長期間片側交互通行とする必要があります。私の

家の前に、ちょうど工事用の仮設信号機が設置されました。これまで車に乗つて走る時に片側交互通行の信号機に出てわざい」とはありましたが、家の前に設置されたことで、改めてじっくりと信号機の様子を観察する」とが出来ました。

まず、なるほどと思ったことは、片側が赤になつたら、すぐに反対側が青になると想つていたけれど、よく観察してみると、片側が赤になつても、しばらくの間、反対側も赤信号が続く、ところのとです。片側の車が通過し切るまでの間、反対側は待つてじなことぶつかつてしまつかりだと思ひますが、他にも、信号の変わらるギリギリのタイミングで走り抜ける車がいた場合でも安全が確保できるように、余裕をもつた時間設定がされているのだろつと考えました。

他にも、車線が減少するといふのはななめに

コーンが置かれ、なめらかに車線が絞りられていくことがわかりました。こうするといつによつて、車が無理なく誘導されるのだと想ひます。

このように、様々な工夫によって、安全に気をつけて行われている道路工事なのですが、その工夫を吹き飛ばしてしまつような問題点が目に留まりました。

それは運転する人の交通安全意識の低さです。家の出入り口で何気なく片側交互通行の信号機を見ていたら、赤信号にも関わらず、一台の車がスピードを緩めることなく、通り過ぎて行きました。私はびっくりしてしまいました。

他にも、最初は止まっていたけれど、信号機の待ち時間が残り十秒を切ると、フライングして進み始める車もいました。あまりに多いので試しに、十五分間観察してみたところ、

十七台中五台が信号無視していました。ものすごい割合です。みんなが安全に通行できるようになめてじる工事なのに、それを帳消しにしてしまつような行為に、とても腹が立ちました。

一人一人の運転手さんが、自分くらつまあいかと思ってする」となのでしょうが、みんながそう思つて行動してしまつと、交通ルールは、めちゃくちやになつてしまします。工事用の仮設信号機であつても、信号としての役割の重さは、同じです。一見ただに見える交通ルールであつても、一人一人が交通安全意識を高く持ち、決して事故を起こさないぞとこづき気持ちでハンドルを握ることが大切です。

また、私たち歩行者も、車は来ないだろうと思ひこます、来るかもしないといつ気持ちを持つて、いつも周囲に注意を払つて歩く

「じ」が大切だ。

家の前が長じ間あつとH事となり、運転なしにも不便だったけれども、交通安全の大切さや、道を歩く時には十分気をつけなさいことを身をもつて実感しました。

運転する人、歩く人の心のむかわが、おもて

を思ひやり、ゆかり合は、気をつけての気持ちを持つて、交通事故のない社会を作つてほしい必要があります。私もその中の一員として、無事故の社会へつなに貢献してこまわ。



佳作

「べるまのうんてんしゅさんにおねがい」

山陽小野田市立高千帆小学校

一年 堀上 大輝

ぼくは、じえかのがついのまどあぬうじこまおむ。そのとちゅうでよぐくねまとすれちがつたり、おじぬかれたりしておふなじなどおもいおむ。べるまをうんてんしてこむとはこれこでこるよつにみえますが、せくたら小がくせじがじにあわなじよつにかんがえながりうんてんしてほつこだ。せくわ、ねじれるとおかあさんがうんてんするのまにのつて、からむのにこあおむ。べるまは、じくわぐくらですが、ひとわわくやなのりものなので、うんてんかぬむひとをうんてん

んてんしてほつこだ。

せこあん、せくは、おひだんほむのじわたるのとこにるねばあさんをみあつた。とてやいもつてこるよつなかおをしてこあつた。くぬものうんてんしゅさんたかは、おひらじじあせんじした。ねばあさんは、おぬくのがおそじので、おひだんほむのじをはやくはわたれあせん。ぼくわおひだんほむのじをわだるときがありまますが、こわくてとてもやうつきがいるます。おとしよりや小がくせじがあんしんしておひだんほむのじをわたれるよつこんでんしづわんだわにね、ルールをまわつてうんてんしてほつこじねやくま。

せよいのトブジの「コースド、かなしうじのじとせのじ」をせのじつこあつた。されば、おせあわんがうんてんあるのが、ステッマークシートのうめつしゃじより、おじいさんねばあさんをはねて、はねられたお

ぼあわんがなくなるところじりでつた。べるまをうんてんしてたねばあさんは、べるまのアクセルとブレーキをふみあわがえたやうです。やまぐちさん、せうじのなかでもおとしよりがおねく、べるまがなじとふぐんなかんであるやうですで、おとしよりでもくぬものがなじとあるのはわかりますが、あんしん・あんぜんなしゃかじのために、できればべるまのうんてんをひかえてほつこです。

いのめいじ、べるまはとてわぐんりで、ぼくわこめいせのじやとペトカーがわせですか。どう、うんてんしゅさんガルールをまわつてうんてんしなことともわきかんなのりものだじねむのじ、うんてんしゅさんにはつもおんしん・あんぜんをかんがえたうんてんをしつせつこだ。

わたしのほうが、おねえさん

下松市立公集小学校

一年 森重 紗雪

夏休みに入つてから、わたしはおかあさんと車で出かけました。

つられておこなが「あつ」といふを出したので顔をあげると、おひだんほじりでもない道のりを自転車にのつたお兄ちゃんがわたりてきました。

わたしの学校のルールでは、自転車は四年生になって自転車教習でおまわりさんルールを守らなければなりませんと一人では自転車にのつて出かけられません。

わたしは、おかあさんやおねえちゃんから自転車にのる時のルールを守らなければなりません。

でも、二年生だから、あそな時に自転車

自分で自分の命を守る

光市立岩田小学校

六年 中崎 有紀

高学年になつて自転車で移動できるせんいが広がり、友達の家にも楽に行けるようになつたので、最近はよく自転車に乗るようになりました。

自転車は、荷物を乗せて長つきよりを進んだり、車が通れない細い道を通りたりするのに便利な乗り物です。ですが、気を付けて乗らないときけんも伴います。

中学生になつたり、毎日自転車通学になるので、今までの自転車の乗り方をぶり返つて、安全に乗るために気をつけなさいことを考えました。

まあ、かた手運転は絶対にしない事です。私は昨年、自転車を運転してから間に、前が

にのひことはでじまわせん。道のりをわたつてたお兄ちゃんはめりと四年生より大きいから、あきな時に自転車にのれるのかなと思じます。ついやましこなと思つたけど、ルールをやぶつてじたのはかつこわるじなと思つたし、ちゃんとルールをまわれるわたしのほうがおねえさんなんじやないかなと思いまし。

車にのつてなかつたひ、ルールをやぶつたお兄ちゃんにわきよこだめたのに。つぎにルールをまわらない人にまし出合つたら、大きないえでちゅうこつめいと悪こわか。

おねえさんだかり。

みが氣になつてかた手を放したらバランスをくずし、自転車がたおれてしまつた事がありました。その時は幸い車は来ていなかつたけれど、もし来ていたら大変なことになつていました。だから、じぐら自転車を乗りこなせている人でも、かた手運転はあぶなひので、両手でハンドルをにぎつて、しっかりバランスを取つて運転してほしです。といふが、スマホを見たり、イヤホンを付けたりしながら自転車を運転する人もいます。前がよく見えない状況や音が聞こえない状況は、周りの環境が分かりにくいため、特にあぶないのでやめてほしです。

次に、スピードを出し過ぎなさい事です。私も、急いでいる時はつこスピードを出し過ぎてしまひます。

スピードを出しきれわぬと急には止まれないし、急にブレーキをかけるといけないま

す。曲がり角や十字路などは、車や歩行者を発見しづらいので、スピードをゆるめて左右の確認に気を付けたいと思つます。どんなに急いでいても安全第一を意識して運転する事が大切です。

それから、自転車に乗る前には必ず点検をする事です。自転車を運転する時、特に大切なのはブレーキとタイヤです。なぜなら、ブレーキがきかなくなると止まつたり、スピードをゆるめたりする事ができなくなるし、タイヤの空気がなじと急にパンクして、バランスをくずしてしまうのを防げんだからです。このような事から、いつも、ブレーキはねえか、タイヤには空気が入っているかを確認することが大切です。そして、タイヤがやわらかければ空気を入れ、ブレーキが少しでもおかしかつたら、自転車に乗りなじむのを怠るのがいいと思つます。

それから、自転車に乗る前には必ず点検を

する事です。自転車を運転する時、特に大切なのはブレーキとタイヤです。なぜなら、ブレーキがきかなくなると止まつたり、スピードをゆるめたりする事ができなくなるし、タイヤの空気がなじと急にパンクして、バランスをくずしてしまうのを防げんだからです。このような事から、いつも、ブレーキはねえか、タイヤには空気が入っているかを確認することが大切です。そして、タイヤがやわらかければ空気を入れ、ブレーキが少しでもおかしかつたら、自転車に乗りなじむのを怠るのがいいと思つます。

それから、自転車に乗る前には必ず点検を

する事です。しかし、歩行者や自転車は小さないので気付けてほしいです。

暗い道で歩行者や自転車が気付かれやすくなるには、反射材が役に立ちます。反射材は、車や自転車のライトに反射するので、反射材を身に付けると、そこにだれかがいるという事を分かつてもらえます。大切な命を守るためにも、もっとたくさんの人々に反射材を付けてもらいたいです。私も、外が暗い中、外出をする時は、忘れず反射材を付けたないと感じます。

それから、自転車に乗る前には必ず点検を

「実体験をもとに」

山陽小野田市立出合小学校

六年 古川 拓翔

交通事故は、不注意が原因の事が多いです。つまり、注意していれば防げる事故もあります。外は、車・自転車・歩行者などのいろいろなものが通つているので、それぞれが注意しないと事故につながります。また、自分の不注意で他の人も事故にまきこんでしまう場合があります。

この事を意識して、交通安全に気を付けて過ごしたことを思つます。

なにげなく見ていたニュース番組で交通事故の映像が流れた。その時ふと自分の昔の事を思い出した。



たおかげで事故にならずにすんだが、一歩踏みингがすれば大事故になってしまった。すぐに親がかけ付け歩道によけたが、バクと音を立てる心臓。ぼくは体のふるえが止まらず、ただただ立ちつくすことしかできなかつた。

この実体験を思い出した事で気付かされた事がある。テレビを通して見る事故が他人事だった事。自分の身にいつ何が起こるか分からぬ事。なれや油断が事故を招くという事だ。

高学年になり、自転車の使用回数や移動距離が広がつた今、改めて交通ルールについて見直してみた。普段、自転車に乗るにあたつて意識している事は、ヘルメットを装着し身の安全を守る事。歩行者がいる時は、進行方向の右側を走行し距離をとつて徐行することで、歩行者が通りやすくなる事。他には、横

断歩道では、一回停止し左右確認後に自転車をおしながら横断する事だ。

逆に、ルールが守れておりず見直すべき事は、時間を気にしそぎてスピードを出しすぎていた事。友達と一緒に歩いて走行している時もあった。また、サドルを高くしむぎて足がしつかりつかず不安定だった事だ。

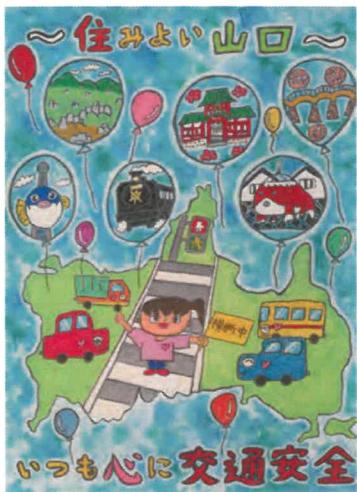
今回の様にふり返る事でも、一回、三回と見直すことで気付く事もあると思う。自分が注意しても被害者になる事もある。だから、口頭からの意識付けが大切であり、自分の命を守ることにもつながると思つ。この世界から一件でも事故がなくなつてしまつ。



長門市立通小学校
2年 新宅 由奈



田布施町立東田布施小学校
3年 内山 朝登



美祢市立大嶺小学校
4年 玉井 優羽

交通安全ホスター最優秀賞作品



平生町立平生中学校
2年 岡山 結実



山陽小野田市立厚狭中学校
3年 多里 壱咲



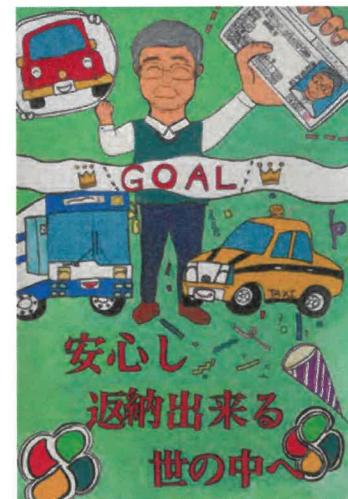
山口県立柳井高等学校
1年 山本 千裕



萩市立大井小学校
5年 小野 紗愛



岩国市立玖珂小学校
6年 藤井 心寧



山口市宮野中学校
1年 帯刀 樹奈

中学校の部

最優秀

みんなの願い、私の願い交通安全

防府市立佐波中学校

一年 松本 つむき

それは冬の日の夕方六時頃の事でした。私は自転車に乗って家に帰る途中でした。信号のない横断歩道を自転車でいつも通り通行しようとしていました。そこは車の通りが多い道で車が来ないことを確認したつもりでした。でもその時、私の左方面から一台の車が横断歩道に向かってやって来いました。私はその車に気付かず、横断歩道にペダルを踏み出していました。「あーぶつかる」と心の中

で私はさけびました。しかし、運良く車がブレーキをかけて止まってくれました。あまりにも怖かったせいか、私は自転車から降りて一礼する事もなくそのまま家に帰りました。家に帰つてすぐに母にその事を伝えました。母も顔色を変えて帰つて来た私に何かあったとすぐ気付きました。

「無事で何よりだった。だけじ命あつての毎日だからね、いつ何が起きるか分からぬから、これからは横断歩道を通過する時は、一度止まって絶対に左右確認せんとうけんよ。」と母は言いました。

私もあの時を振り返つて考へると、確かに母が言つていた事はしていなかつたかもしないと思いました。横断歩道を通行する前に一度止まり、左右に車がない事を確認したか、走行にあたつての安全確認をしていたか、私にも注意しなければいけない所が沢山あります。

ました。曰頃、「これまで何もなかつたのだから大丈夫だろう、自分だけは大丈夫だろう」と油斷していた自分にヒヤリとしました。もし、事故になつていたらどの様な事になつていたか想像するとしても怖くなりました。慣れた道ほど、再確認しなければいけないと思いました。そして青信号でも左右を見てから渡ろうと決めました。

時々、年配の自転車の方が横断歩道を自転車を押して歩いておられる姿を見かけます。その方達は、もしかすると安全を意識されているのかもしれないし、危険な目にあつてみて初めて気付きました。常に道路を利用する他の人の心を理解し、思いやり、譲り合ひの気持ちを持つておられるのではないかと考えました。私は、あの日をきっかけに交通安全について考える事が増えました。自転車も安全運転をしなければいけないとこの気持ちは大切です。報道によつてみんなが交

なりました。

最近、携帯電話を使用しながら自転車に乗つてゐる、ながら運転の危険な人をよく見かけます。通学、通勤途中の人が多いです。どうして携帯電話を使用しながら自転車に乗るのか疑問です。自転車に乗りながらの携帯電話はやめてほしきです。ちゃんと前を見てハンドルを持つ手をひとつ引き締めてほしきです。また、スピードを出す自転車に乗つている人もよく見かけます。どんな時でもスピードを出さず、歩行者優先を心がけてほしいなと思つてます。

自転車は近年、危険運転による事故が報道でも取り上げられています。報道は交通安全の意識を高め、社会に広く訴えてくれています。交通事故はいつ起きるか分からぬ、明日は我が身かもしれないからこそ、日頃からの意識が大切です。報道によつてみんなが交

通安全について考えるきっかけとなってくれたら嬉しいと思いました。それで運転手、歩行者みんなが意識すれば交通事故の少ない社会、交通事故が減る社会が実現出来るはずです。少しの意識で交通事故はなくせるはずです。その為に正しい交通ルールを知る所から始めなくてはいけません。

あすは自分が勉強してみようと思ふ。私は
母が免許更新時に出でた総合交通センター

からもうつて来た交通教本一冊をじっくりと読みました。自転車のページをしつかり読みました。自転車は手軽な乗り物として幼児から高齢の方まで幅広く利用されているそうです。自転車が関係した交通事故も多く、令和三年度の山口県の死傷者数は、死者一人、負傷者三四七人でした。年齢別では、今まで六五歳以上が一番多く、死者一人、負傷者一〇四人でした。中学生は、死者〇人、負傷

事故は一瞬で人生を壊します。自分自身の
為の交通安全を一人一人が自分なりに見つけ、
自覚する事が明るく楽しい住みよい交通
社会に繋がるはずです。

優秀

一人一人の注意が大事

正立阿東東中學校
一年 中島 慎平

毎日、朝見るニュース番組で、交通事故がおこったところのニュースや、マナーの悪い運転に巻きこまれてしまい、言いがかりを付けられて怖い思いをしたところのニュースを目にします。そういうニュースを目にすると度擔心します。

一年
中島
慎平

がモヤツとして、見たくないな、チャンネルを変えようと思つてしまひます。

僕が一番「怖いなあ、嫌だなあ」と思つてしまつ事故は、歩道に車が突っ込んでしまつて、歩道にいる人達が巻きこまれてしまつという事故です。僕は、自転車を使って通学をしております。だから、けつこう事故もあるのだとうることをしつかりと頭に入れておかないとじかにならなと思います。

僕が住んでゐる所は、田舎で信号機も少ない地域です。でも、家の近くには国道が通つていて、トラックや車の交通量はそれなりにあります。所々にしか信号機がないので、時々信号を見落としてしまひドライバーさんがおられます。なので、国道を渡る時は、青信号になつても、ドライバーさんの目をしつかり見て、自分がいる事を認識してからえて、確実に車が止まつてゐる事を確認して渡るよう

歩道は例外。一、車道は左側を通行。三、歩道は歩行者優先で車道寄り徐行。四、安全ルールを守る。五、子供はヘルメットを着用で自転車等軽車両が通行出来る路側帯は左側に限られる。そうです。そして、自動車同様違反と罰則があります。自転車と言えども馬鹿に出来ないと思いました。

私は、もしも事故をした時の為に自転車保険に加入しています。先日、自転車屋さんに点検、整備をしてもらい、自転車にT-Sマークを貼付されました。少し安心安全です。また、七月に父と消防署で応急救護講習を受け普通救命講習修了証カードを持つています。交通事故の現場にそう遇したら負傷者を救護出来ます。万が一の時に備えて私も準備

にしています。少し前に、信号が赤になつた事に気付くのが遅れてしまつたようで、止ま
れなくて、僕に「ぐめんね」という合図を送つ
てくれたドライバーさんがいました。もしそ
のまま歩行者用信号が青信号になつてすぐ
渡り始めていたら、もしかしたら事故になつ
ていた可能性があつたなと考えました。そし
て、ドライバーさんも信号を見落としてしま
うこともあるのだなと実感しました。

また、その他にも僕の通学路では、農繁期
になつたり細い道などにもトラクターが走つ
ています。トラクターは幅が広くて音も大き
いので、僕たちが死角に入らなじように注意
しないといけないなと思っています。ドライ
バーさんも常に安全運転をしようとしている
とは思つけど、自分たちも周囲をしつかり見
て、自分の身を守れるように気を付けることが
大事だなと思つてみました。

車が一時停止のルールを守つてくれるといとも
大事ですが、渡る歩行者側もルールを守るこ
とが大事だと思つてします。

時々、横断歩道が近くにあるのにそれ以外
の場所を横断し、車にはねられるという事故
を聞きます。こういう事故を聞くと、はねら
れた人も、車を運転していた人も、どちらの
人もかわいそうだなと思つてしまします。歩
行者も横断歩道を渡つていたら事故に合わな
かつたかもしれないし、車も横断歩道の場所

だつたら、歩行者をはねずとまれていたかも
もしれないと思うと、防げる事故だつたので
はなかつたのかなと思います。歩行者もルー
ルを守つて、横断歩道を利用する事が大切
だと思いました。また、横断歩道を渡るとい
う意思表示も大事だと思いました。

事故には、ドライバーが悪かつたり、歩行
者が悪かつたりなどの様々なパターンがあり

信号機の無い横断歩道での車の一時停止の
状況を調査した結果を見てみると、二〇二一
年の全国平均が三〇・六パーセントだったと
いうのを見ました。前の年に比べたり上昇し
てじるとの事ですが、約七割の車が止まつて
いないという事を知り驚きました。最近は、
テレビのコマーシャルや道路の電光掲示板で
も、一時停止の呼びかけと渡る人もはつきり
と意思表示をしましょんといふ呼びかけをよ
く見かけます。それでも、実際には、まだ
三〇パーセントくらいの人しかルールを守れ
ていないというのが現実で、すべての人達が
ルールを守つていけるまでには、あとどの位
の時間が必要なかなと思いました。家族が、
一時停止をしていなかつた車がパトカーに止
められていたよと話していました。ルールが
みんなに伝わるように警察官の方々もいろいろ
取り組んでおられたのだなと思いました。

ます。お互いの身を守り、道路を安心安全で
事故が起こらないようにする、ということを
目標に、道路を利用する人がちゃんとルール
を守る方が大切だと思つます。

「当たり前」を当たり前に

長門市立日置中学校

三年 德永 昂士

僕はテレビで、自動車による事故を何度も
聞いたことがあります。飲酒運転やあおり運転、
ながら運転・・・ほとんど自動車運転のルー
ルやマナーを守らなじで起こつた事故だつ
た。また、保健の教科書で、歩行者に原因が
あつた事故も多くあつたことを知つた。
自動車による事故を減らすためには、運転
手が安全運転をする必要がある。

僕は塾の行き帰りは車を使う。ある日、塾の駐車場を出ようとしたときに、対向車が僕たちの乗っている車に気づかず突っ込んできた。ぶつからなかつたが、その車を運転していた人がもつと周りを見ていればひやひやせずに済んだと思う。

安全運転ができるようにするためには、まず運転手が周りをよく見ねと云うマナーを守ることが重要だ。このマナーを守ることによつて、不注意による事故を減らすことができるはずだ。また、僕はテレビで、飲酒運転で捕まつた人を何回も観てきた。

飲酒運転はもうろん禁止されている。それなのに飲酒運転をする人がいるのは、「少しうるさいお酒を飲んで運転しても良いだろ」という思いがどこかにひそんでいるのではないかと思う。そのような感じは誰にでもあり、誰でも犯してしまおうの可能性があるかもしけな

はとてもひやひやする。車が通つてしないとはじえ、とても危険だ。自動車と歩行者の衝突事故がいつか起つてゐるのではないかと心配している。

この経験から、歩行者も交通ルールを守ることはあるだと思った。実際、歩行者が交通ルールを守らずに起つた事故は多くあるそうだ。

歩行者が交通ルールを守らずに事故が起きてしまつるのは、「みんなやつてしまふから自分もやつてしまふ」ところの考え方があるからではないのだ。

一九八〇年代、「赤信号みんなでわたれば怖くない」という言葉が流行したそうだ。この言葉は、禁止されてゐることでも、みんなでやつてしまえば抵抗なくやれ」とがでむる、そんな意味があるそうだ。最近は使われなくなつた言葉だといふが、ときどきどこかで聞くことがある。本当は危険でもみんながやつ

い。僕も犯す可能性はなうとは云々など。

しかし、「少しうるさい感じだね」との思いを打ち払い、ルールを守ねよ」とは、安全運転するために必要なことだ。飲酒運転についても、歩行者も注意しなければ事故は防ぐことはできないと思つ。歩行者も交通事故を防ぐための意識は必要となる。

僕は学校の帰り道、押しボタン式の信号がある横断歩道をわたる。その横断歩道の押しボタンを押さず、つまり、歩行者の信号は赤のままなのに横断歩道をわたる人を何人か見かけたことがある。それを見かけるたび、僕

てじるから、自分もやつてしまふのと思わず、きちんと交通ルールを守ろうとの意識を持つことが大切だ。また、交通ルールを守らず危険な行為をしている人を一人でも多く注意する人が増えれば、交通事故を防ぐことにつながる。

これまで僕が述べたことは決して難しじとではない。それぞれの人の心の持ち方によるものだ。誰かが「少しうるさいやつても良いだね」「みんなやつてしまふから自分もやつてしまふ」ところの考え方があると事故が起こるのではないか。

道路や歩道の状況により、どんなに注意しても起つてしまつた事故はあると思う。それでも一人一人が交通安全を心がけることにより、交通事故を大幅に減らすことができるはずだ。

当たり前を当たり前にする。この考え方を

持つことが大切であると思ひ。この場面の「当たり前」は交通でのルールやマナーのことだ。この当たり前を一人一人が守ることによって、ことによって、はじめて当たり前になれるのではないか。当たり前が当たり前になり、交通事故が少しでも減つてこつとほつ。

佳作

自分と相手を守る交通安全

萩市立萩東中学校

1年 中島 有咲

毎朝、出かける私に母が必ずかける言葉がある。

「行つていひしゃべ。気を付けてね。」

いつも当たり前のようにならわれてこつといの

ターネットで調べてみた。

山口県警察本部交通白書令和三年版によると、中学生の交通事故が多く発生している時間帯は、登下校の時間であることが分かった。このことを知り、今まで以上に登下校の交通安全に気付けようと思った。そして、母の言葉がより私の心に響くようになった気がする。

また、中学生の交通事故の発生件数を種類別に見ると、歩行中の事故よりも、自転車乗車中の交通事故の方が多いうことが分かった。私は、普段は徒步通学だが、学校が休みの日には、自転車で部活動に行っている。家の前の道は、細いけれど意外と交通量が多い。スピードの速い車が横を通り抜けるときは、ヒヤッとする。大きな道に出ると、自転車の通行が可能な歩道を走ることになる。すれると、今度は歩行者や曲がってくる車にも気を付け

な葉。母は、一体どんな気持ちで言つてこるのだろう。ついで、先日、母にたずねてみた。母は、「今朝も無事に帰ってきてほし」と思つて……」と言つてこた。また、母も子どもの頃に、玄関先で祖母から「のんに言われていた記憶があるというだ。毎朝かけてくれる言葉に、母の私を思ひ気持ちがこめられていたことに初めて気づいた。そして、改めて、交通事故に気を付けるといふ思いが強くなつた。

「テレビ」でも、毎日のように交通事故のニュースが報じられている。子供もや高齢者が被害にあう事故、飲酒運転やあおり運転、中には事故にあわれた方が亡くなつてしまつケースもある。このようなニュースを見ると心が痛み、悲しい気持ちになる。

私は、自分と同じ中学生がどのような交通事故にあつてこらか気になつたので、イン

なことだけなし。

自転車乗車中の交通事故を減らすためにはどうしたらよいのだろうか。私は、次の三点が大切だと考える。

一つ目は、安全なスピードで走るといふ。自転車は急には止まれない。車や歩行者にぶつかりそうになつたときに、すぐに止まれる速さで走行する、ことが大切だと思つ。安全な

環境をより早く察知することができる。以前、学校で動画を見たときには、自転車が曲がり角でスピードを出してこたために歩行者に被害を与えてしまうというケースがあつた。相手にけがを負わせてしまうだけでなく、多額のお金を払わなくてこなくなつてしまつ、家族にも迷惑をかけてしまつ。自転車側が加害者になつてしまつところに改めて衝撃を受けた。

「一つ目は、交差点での安全確認をする」とだ。信号を守るとはもちろん、信号が青でも、曲がってくる車に気を付けなければならぬ。車の運転手が自転車に気ついてくれば止まってくれるかもしだら、「止まってくれるだろ」という油断は事故につながってしまう危険性がある。運転手の目を見ることも事故を防ぐために大切なポイントだと思つ。

二つ目は、自転車の点検をする」とだ。中学校に入学してから自転車点検があつた。そのときに「あたはしゃべる」という言葉を知つた。「アレーキ」「タイヤ」「反射材」「車体」「ベル」の確認をしておいたが、事故を防ぐためにもつながると思つ。

この三つは、自分の命を守るためにも大切だと思う。相手の命を守るためにも大切なため、自分が交通事故にあわなうようになります。

母の何気なしの言葉は、私が交通安全について考へるきっかけとなつた。これからは、私も大切な家族にこの言葉をかけていきたいと思つ。そして、家族にも交通安全の意識を高めてほし。

母は、これからも毎朝この言葉をかけてくれるだろ。私も毎朝、笑顔で「行ってきます」と言つて続けていきたい。そんな幸せな毎日が続きますように。。。

「行つていつしゃべ。気を付けてね。」

命の大切さ

上関町立上関中学校

一年 鶴田 句

「気を付けてね」

これは、僕の母が家族が出かけるときにかかる言葉です。家を出るときと同じように怪我などせぬ、元気に帰ってきてほしつからだと言つます。

自分が小さい頃、車にひかれたことがある話を少し前に聞かせてもらいました。家の前の道路でひろんだのか、覚えてるのは、横を見るといつに向かつて車が走つてくるシーンだつたそうです。何十年経つても、未だに忘れられれば、今は薄くなつた傷跡を覗く度に、思い出したことでした。車にひかれると、命がなくなつても不思議ではないのだ、良かつたなと思います。小さ

かったので、自分の兄につつてつうと飛び出しあつました。相手の車にも申し訳なかつたと母も言つてもらいました。

僕は、小さい頃からよく怪我をして、家族に心配をかけてきました。転んで出血したり、病院で治療が必要なことも何度かあります。体を動かすことは好きだったのに、急に走りだす」ともあって、大きな店の駐車場などで車から降りたときは、さぐに飛び出さないように手をつないでいたそうです。自分では大丈夫と思つていても、周りから見ると危険がじつぱじだつたのかもしれません。

学校の登下校では、地域の方やお巡りさんが、毎朝安全に学校へ行けるように見守つてくださっています。狭い道でも車が通りたり、思わないことが起つることもあるので、多くの方に見守られて安心して送り出せると家族も言つていました。ただ、僕たちも交通ルール

を忘れないに、気を付けて登校してやったのです。

僕の町には信号が一つもありません。高齢者の多い町ですが、道の駅や温泉など、様々な施設ができたこともあります。特に休日には、町外からの車も多く見られるようになります。横断歩道はあるのですが、高齢者の方の多くはそのまま横断する姿をよく見かけます。横断歩道のあるといろまで行くのが面倒なのかもせんが、左右もあまり確認せず、時には斜めに渡る高齢の方も見たことがあります。あまり速く歩けないので、危ないなところも冷や冷やします。キャンピングカーなどの大型車や、バイクや自転車、町外からの車も多いので、まずは必ず横断歩道を渡ることを意識して欲しいです。

僕の祖母も、自分の健康のために、と近所をよく散歩します。コースも特に決めていない

事故が減ることを願つておま。

家族の車に乗つてじるとき、道路のすぐそばに歩行者がいるとき、ステーナーを落として大きくよけて通つています。もちろん安全のためです。僕が通学するときも、やはり車が近くを通るだけでも、少し怖いと感じるといふので、歩くときは絶対にルールを守りたいと思います。父は、原付バイクで出勤しているますが、数年前に砂で滑り転倒したことがあります。たくさんのあり傷と、腕を骨折しました。体が直接外に出つてるので、怪我も大きくなってしまいます。ヘルメットをかぶつてじるたで頭は大丈夫でしたが、頭部を怪我すると命に関わつてしまひうるので重要です。

自分や身近な人などが危険な目に合つて、改めて気をつけなければいけないと考えます。でもそれだけではなく、「行ってきまわ

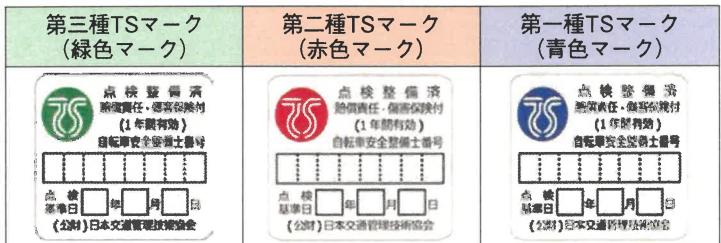


と出かせたら、「元気に」「ただいま」と帰つて来られるように、一つしかなじ命を大切にしてじきたじだ。

この「ただいま」を歩いてくるのか分かりませんが、大きな道路の近くは行つてもういたくないなと思います。特に夕方の薄暗い時間帯は、車から見えにくいで、明るい色の服装や反射材の利用をして欲しいです。車を運転する人達も、高齢者などの歩行者に優しくでも巻き込まれ、一瞬にして大切な命が奪われることもあります。僕の母は保育士なので、園児と散歩に出かけることもあります。その時は、車から見えやすくなる横断旗を用意してじくそつです。「やはり園外に出ると、思わぬ危険が待つていてるかもしないので緊張する」と語してくれました。お互いが交通ルールを意識して、少しでもやつこつた

点検整備を受けた自転車に乗りましょう。

- 自転車安全整備店で点検・整備を受けると、その証としてTSマークが自転車に貼付されます。年1回は点検整備を受けましょう。
- TSマークには、賠償責任保険と損害保険の2つがセットになった1年間の付帯保険が付いており、もしもの時に安心です。
- お近くの自転車安全整備店へご相談ください。



※ 令和4年7月、赤色・青色TSマークのデザインが変更になりました。
従来のTSマークが貼付されていても、補償の内容は変わりません。

	賠償責任補償限度額	被害者見舞金			傷害補償保険金額	
		入院15日以上の傷害	死亡・重度後遺障害(1~4級)	入院15日以上的傷害	死亡・重度後遺障害(1~7級)	入院15日以上的傷害
緑色 TSマーク	死亡・損害(制限なし) ※示談交渉サービス付き 限度額1億円	なし (賠償責任補償により対応)	一律50万円	一律5万円	一律10万円	一律10万円
赤色 TSマーク	死亡・重度後遺障害 (1~7級) ※示談交渉サービスなし 限度額1億円	一律10万円	一律100万円	一律10万円	一律30万円	一律1万円
青色 TSマーク	死亡・重度後遺障害 (1~7級) ※示談交渉サービスなし 限度額1,000万円	なし	一律30万円	一律1万円		